

平成 26 年 9 月号

メンバー、ボランティア、学生
みんな仲間!

けやきと仲間 めーる



こころの病と闘っている人々と千葉大学生や周囲地域との協働の会 地域活動支援センター「けやきと仲間」

平成 26 年 9 月 1 日 (第 113 号)



酷暑を乗り切った仲間たち



「西條さんに感謝する会」の後、メールをいただきました。

けやきと仲間のメンバー、スタッフの皆様

本日は身に余る盛大な送別の集いと贈り物など感謝の至りです

ただ長く続けたというだけで格別のお手伝いはできなかつたことが

心残りです

けやきと仲間の活動が今後も社会的に有用な存在として発展されることを

心より祈念して居ります

7月31日 西條良和

パソコンで封筒に住所を入れることが出来た人、パソコンだけでなく、西條さんが育てられた野菜を絵に描いた人、西條さんに戦争や人類の話をしていただいた人等々、本当にありがとうございました、今後ともよろしく願い致します。

～「けやきと仲間」に通って思うこと～

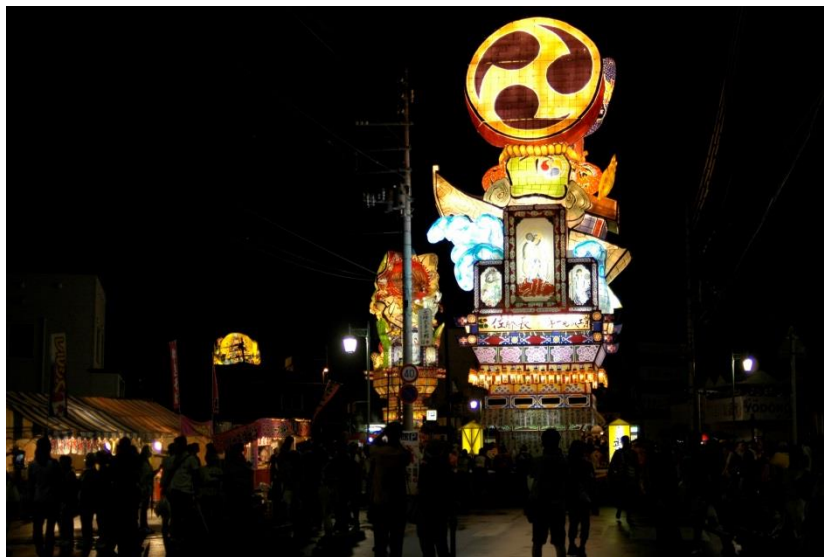
私は、「けやきと仲間」に7～8年前から通っています。なぜかということ、私は職もないし障害を持っているということもあるからです。今日は「けやきと仲間」の仲間たちのことをお話したいと思います。通っている理由は人それぞれだと思いますが、一番多い理由は寂しいからという方が多いと思います。皆さんがなぜ寂しくなってしまうのか、それは人とうまくコミュニケーションが取れないからだだと思います。彼らも私もそこに苦勞しているのです。人とコミュニケーションをとれない主な原因は人を恐れてしまうからだだと思います。彼らは「周囲の人は、自分をどう思っているのか、バカにはされていないのか、少しは尊敬してくれているのか」という思いが心配になり、そこから人が怖くなってしまわないでしょうか。

「人からしてもらいたいように人にもしなさい」という言葉が聖書の中にあります。他人ばかりに求めてしまつて、自分から何かを与えることを忘れてしまいがちだということではないでしょうか。ではどうすればいいのか、人から尊敬されたいという気持ちがあるなら、ただ待つばかりではなく、こちらから人様に敬意を払っていくこと、親切にしてもらいたければ、こちらから人に親切にすることなどではないでしょうか。それを行動に移すには心に病をもつ私には難しいことです。でも、まず家族以外では一番身近な「けやきと仲間」の人たちとの関わりの中で少しずつでも行動できればと思います。そのことがコミュニケーションにつながることを願つて。現在NHKで放映されているドラマ「花子とアン」の中で、花子の母校の校長先生が語つた「最上のものは過去にあるのではなく、むしろ将来にあるのだ。旅路の終わりまで理想と希望をもって歩み続けなさい」という言葉が私の心の中に残っており、今後も大切にしたいと思っています。

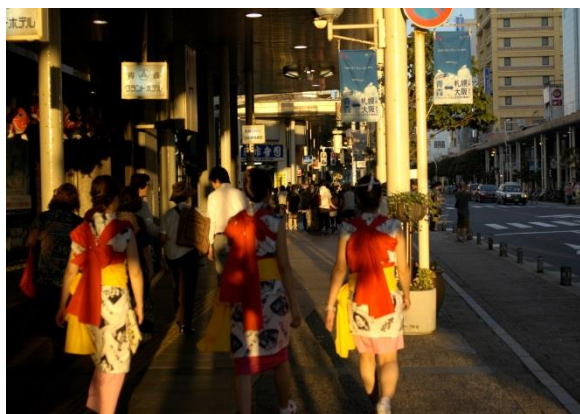
S・H

～齋藤 毅さんの夏休み～

父が単身赴任している仙台を起点として青森ねぶたまつり、五所川原ねぶた祭りなどを見てきました。3年前の東日本大震災の直後もやはり父が住んでいた仙台を中心にカメラを持って歩きました。その時のことを思い出しながらシャッターをきりました。



↑五所川原立佞武多(ごしょがわらたちねぶた)祭り↑



↑青森ねぶた祭り↑



～お知らせ～

第15回 ディライトフル・フェスタ

日時：平成26年10月15日（水）

10:00～15:00（受付9:30～）

場所：JFE 千葉体育館（旧川鉄体育館）

千葉市中央区南町1-3-1

種目：ソフトバレーボール（チーム対抗戦）

レクダンス、〇×クイズ

☆館内用シューズ持参

☆昼食は法人で用意します

☆試合終了後も、レクダンス、〇×クイズをお楽しみに！

☆参加希望者を募っています

川
柳

キヤベツ切り指まで切って疲れきる

満腹だお好み焼きだ手作りだ

夜食べぬ習慣つけてダイエット

八月に先祖の苦勞身にしみる

疲れたが人と会話しリフレッシュ

本当は父との会話作りたい

ウソみたい薬減ったよ今月も